

広報

ふかうら

6月号 2015
No.123

神秘の池「青池」

新緑に包まれ、コバルトブルーに輝く「青池」。見る人は魅了され神秘的な雰囲気陶醉します。

深浦町・岩崎村

合併10周年を祝う

草野ファミリースペシャルインタビュー



合併10周年を記念し町観光特使に就任された、草野とおるさん、山田まりやさん、崇徳君一家にインタビューしました。

山田…5周年の時は一人で心細かった面もあったのですが、家族で観光特使になれて嬉しく思っています。

草野…生まれ育った深浦町の観光特使に就任したご感想をお聞かせください。

草野…生まれ育った深浦町の観光特使になれるなんて思ってもみなかったです。ものすごく光栄です。

山田…来町した際、訪れるスポットはありますか。

草野・山田…広メさん！(笑)

山田…いつも良くしていただいています。新鮮な魚介を使った海鮮丼をいただくことが多いのですが、この間初めて「マグロステーキ丼」食べてみました。とってもおいしかったです。

草野…広メに行つて、ゆとりの温泉に入るのがいつものコースですね(笑)

山田…2、3日しか休みが取れないのであんまり遠くには行けないんです。来町の一番の目的は、主人の両親とのんびりゆっくりお話しすることです。

山田…五能線の列車が見えるスポットが面白いですね。広メさんのお座敷から至近距離で見えたりとか。あと、みちのく温泉

草野…昔は深浦駅から眺める海側の景色が大好きでした。今は、広戸の坂から深浦の町並みと海を見下ろす風景がとても好きです。帰ってきたなあと実感します。

山田…最後に深浦町の皆さんへメッセージを。

草野…これからも末永くよろしくお願いします。息子に津軽弁とか教えて、町の人の露天風呂ですね。私が入浴していたら五能線が通過して、車内のお客さんと目が合いましたよ！地元の人

山田…参加させていただけるなら、提案もしていきたいですね。深浦にはいい素材がたくさんあるのでどんどんPRしていきたいです。

草野…東京だと、オーガニック系食品のマーケットもあるから、健康志向のお客さん向けにいいかもしれないね！

山田…食事のプロデュースなど行っているの、つるつるわ

山田…NHKラジオ第一のレギュラー番組「午後のまりやじゅ」(月、金13:05～16:55)で深浦町を紹介できるように、町民のみなさんからたくさんお便りをいただきたいと思っています。あ

山田…NHKラジオ第一のレギュラー番組「午後のまりやじゅ」(月、金13:05～16:55)で深浦町を紹介できるように、町民のみなさんからたくさんお便りをいただきたいと思っています。あ

山田…NHKラジオ第一のレギュラー番組「午後のまりやじゅ」(月、金13:05～16:55)で深浦町を紹介できるように、町民のみなさんからたくさんお便りをいただきたいと思っています。あ

山田…最後に深浦町の皆さんへメッセージを。

草野…これからも末永くよろしくお願いします。息子に津軽弁とか教えて、町の人の露天風呂ですね。私が入浴していたら五能線が通過して、車内のお客さんと目が合いましたよ！地元の人

山田…参加させていただけるなら、提案もしていきたいですね。深浦にはいい素材がたくさんあるのでどんどんPRしていきたいです。

草野…東京だと、オーガニック系食品のマーケットもあるから、健康志向のお客さん向けにいいかもしれないね！

山田…食事のプロデュースなど行っているの、つるつるわ



褒賞を受け取る小野文之議員



会場内に万歳の声が響きわたる

5月30日、「フィットネスプラザゆとり」において深浦町・岩崎村合併10周年記念式典が開催され、町民や町関係者ら約200人が合併10年の節目を祝いました。

式典では、吉田町長から「次なる挑戦への10年に向け、少子高齢化、産業振興など町民一丸となつて取り組みたい。『賑わう「まち」、生き生きと暮らす「ひと」、豊かな「自然」がつなぐ、わのまちふかうら』を目指していきたい」と式辞がありました。

また、長年にわたり、町に貢献された方々に褒賞が贈られました。特別功労には11年にわたる町の地域医療を支えた故柳善佑氏など52人1団体がその栄を

受けました。受賞者を代表し小野文之議員は「本日の褒賞を励みとし、努力を重ねて地域に貢献していきたい」と謝辞を述べました。

サプライズとして深浦町出身の俳優草野とおるさん、妻でタレントの山田まりやさん、長男崇徳君の一家が登場。吉田町長が観光特使就任の委嘱状を交付しました。

記念映像として、町の移り変わりをまとめた「新町10年のあゆみ」など3作品が上映され、会場からは昔を懐かしむ声が多く聞かれました。

式典の最後には、万歳三唱が行われ、参加者は町の発展を誓いました。

合併10周年記念事業として、「深浦のど自慢大会」が式典終了後、開催されました。会場となった「フィットネスプラザゆとり」には350人が来場。深浦町のど自慢たちの歌声が会場いっぱい響きわたりました。

今回の大会には20組が出場し、10代から80代まで幅広い年代が自慢ののどを披露しました。こぶしの効いた演歌からJ-POPなど様々なジャンルの歌に会場の熱気は最高潮に。また、大漁旗を背に歌うパフォーマン

なお、表彰結果はつぎのとおりです。

優勝	小枝 佳乃子
準優勝	吉井 育男
審査員特別賞	松沢 歩美
麻生しおり賞	堀内 たま
敢闘賞	藪崎 由歩



出場者最高齢の堀内たまさん



会場を大いに盛り上げた佐藤ひささん

合併10周年記念事業Ⅱ 深浦のど自慢大会





発災のその後で 深浦町防災訓練

- ①カレーの配膳を手伝う岩崎中学校の生徒
- ②倒壊家屋からの救出訓練で搬出される訓練者と自衛隊員
- ③興味深げにポンプ車のお話を聞く園児たち（風合瀬地区）
- ④有事に備え日々訓練に励む消防署員



毎年行われる防災訓練。意識を持ちながら参加することで、心の備えになり有事の際の行動につながると思います。
5月26日の記憶を語り継いでいきましょう。

平成27年3月に青森県が発表した深浦町の津波の高さ予測は、最大で21・4メートルとなっています。
このことを受け、町では今年度津波ハザードマップの作成を予定しています。
また、高台への避難路を平成26年度に2か所整備し、本年度も2か所の整備を予定しており、有事の際の備えとなるよう計画的に防災基盤の強化を進めています。

町の防災対策は

深浦町防災訓練は、日本海中部地震が発生した32年前と同じ5月26日正午、緊急一斉放送及び緊急エリアメール伝達と同時に実施されました。
全町あがりの訓練には、各保育園や福祉施設、自治会など約3,000人が参加し、防災への意識を高めました。
マグニチュード7・7、震度5弱以上の地震による10m以上の津波襲来と土砂の流出で国道が寸断し集落が孤立、家屋倒壊による負傷者が発生したと想定。参加者は津波襲来の一斉放送を受け、慌てず落ち着いた様子で高台へと避難し、経路を確認しました。
訓練のモデル地区に設定された、岩崎上・岩崎中・岩崎下・正久地区の住民は、避難場所のいわさき小学校体育館に続々避難。「深浦町防災訓練対策本部」では各所から寄せられる避難情報収集が行われました。
また、倒壊家屋からの住民救出訓練や炊き出し訓練には、陸上自衛隊弘前駐屯地が協力。岩崎中学校の生徒は避難者の誘導

岩崎地区を モデル地域に

や、炊き出しの配膳など、対策本部運営にボランティアとして参加していました。陸上自衛隊とともに炊き出し訓練をした秋穂圭祐さん（岩崎中3年）は「避難者の人数が多くて配膳が大変だったが、自衛隊のみなさんにサポートしてもらいスムーズにできた。災害が発生したときは訓練を思い出し、命を守るために行動したい。良い経験になった。」と話しました。

日本海中部地震 から32年

津波が沿岸各地を急襲し未曾有の被害をもたらした日本海中部地震から32年。町では、この震災を風化させることなく貴重な教訓とするため5月26日を「深浦町防災の日」と定め防災訓練を続けてきました。

32年前を知らない中学生たちに、この地震について聞いてみても「聞いたことはあるけどよく分からない」といった回答が目立ちました。
最近では、東日本大震災の様子が鮮明に思い出されますが、この町でも災害があったことを忘れないために地域ぐるみで後世に伝えていく取組が必要です。

まちづくりの展開

～ 5つの施策、3つの重点プロジェクトを柱に新しいまちづくりを進めます ～

深浦町の豊かな自然や様々な地域資源(地域特性・個性)を活かし、暮らしの豊かさを実感できるまちづくりを推進するために、5つの施策分野での取組とともに、複数の施策を結集・融合させながら分野横断的・先導的に展開していく3つの重点プロジェクトを掲げました。

まちづくりの基本的な考え方と施策体系

まちづくりの基本的な考え方

- 1 「自然」「文化・歴史」をつなぐまち(地域の魅力・地域資源)
- 2 「温もり」のあるまち(ひとの持つ個性・住民気質)
- 3 「活力」のあるまち(地域活性)
- 4 「安全・安心」なまち(暮らしやすさ)
- 5 深浦町らしいまちづくり(独自性)

▼ 重点プロジェクト ▼

1 保健・医療・福祉施策(7施策)

- 施策 1-1 誰もが元気で健やかに暮らすまち(健康増進・保健活動)
- 施策 1-2 生きがいを持って高齢期を過ごす長寿のまち(高齢福祉・介護保険)
- 施策 1-3 地域の支えとともに、自立をめざせるまち(障害福祉)
- 施策 1-4 安心して子どもを生み育てることができるまち(子育て支援)
- 施策 1-5 身近な支え合いのあるまち(地域福祉)
- 施策 1-6 適切な医療を受けられるまち(医療体制)
- 施策 1-7 生涯の社会保障をみんなで支えるまち(保険・年金)

定住促進
プロジェクト

2 産業振興施策(5施策)

- 施策 2-1 消費者ニーズにあった農林畜産業を営むまち(農林畜産業)
- 施策 2-2 海の恵みをつくり育てる漁業のまち(水産業)
- 施策 2-3 自然と歴史、癒しがもてなす観光のまち(観光業)
- 施策 2-4 賑わいと暮らしを支える商工のまち(商業)
- 施策 2-5 新たな地域力を生み出すまち(新たな産業の育成)

第一次産業と観光業の
融合による地域振興
プロジェクト

3 環境保全・生活環境施策(6施策)

- 施策 3-1 自然と調和し、ともに生きるまち(土地利用・基盤整備・生活環境)
- 施策 3-2 人と車、情報が快適に行き交うまち(道路・交通網・情報基盤)
- 施策 3-3 安全で衛生的な水と暮らすまち(上下水道)
- 施策 3-4 環境にやさしいまち(環境保全・循環型社会)
- 施策 3-5 いざというときに備えるまち(防災・消防・救急体制)
- 施策 3-6 ふだんから安全を心がけるまち(防犯・交通安全・消費者対策)

4 教育・文化施策(4施策)

- 施策 4-1 子ども達が健やかに成長するまち(幼児・学校教育・健全育成)
- 施策 4-2 住民同士の学習・交流を大切にするまち(生涯学習)
- 施策 4-3 誰もがスポーツに親しめるまち(スポーツ・レクリエーション活動)
- 施策 4-4 郷土の自然や歴史、文化を継承するまち(地域文化)

地域医療・
地域包括ケア推進
プロジェクト

5 住民協働・行財政施策(5施策)

- 施策 5-1 とともに協力し合い、行動するまち(協働によるまちづくり)
- 施策 5-2 身近なつながりで支え合うまち(地域コミュニティ・地域間交流)
- 施策 5-3 互いを認め、尊重し合うまち(人権・男女共同参画)
- 施策 5-4 信頼される健全な行財政運営を推進するまち(行財政運営)
- 施策 5-5 近隣や広域と連携し、発展するまち(広域行政・広域連携)

将来像

「まち」「ひと」「自然」がつなぐ「わ」のまちふかうら

「まち」「ひと」「自然」がつなぐ ‘わ’のまち「ふかうら」づくり スタート!!

～ 深浦町第二次総合計画(平成27～36年度)策定! ～



町では、平成27年度を初年度とする向こう10年間のまちづくりの指針となる「深浦町第二次総合計画」を策定しました。

平成26年10月15日、総合計画審議会の第1回会議を開催して15人の委員を委嘱、会長に小野文之氏を選任し、審議を重ねてきました。

平成27年2月25日、小野会長から町長へ当計画に係る答申がなされ、3月議会に上程、承認されました。

計画では、これから10年において、「まち」「ひと」「自然」の調和により、町内外の方々が様々な交流(繋がり)によって希望を持って生きいきと生活し、ふるさと深浦に「住んで良かつ

重点プロジェクト

～ より暮らしやすく、活力のあるまちを築いていくために ～

深浦町が抱える人口減少及び少子高齢化の進行、地域経済の停滞といった課題に対し、地域資源を強化・活用することにより、まちの魅力や活力、付加価値を一層高め、私たちのまち深浦町が暮らしやすく、定住促進やまちの賑わいにつなげていくことをめざす総合的な取組を3つの重点プロジェクトとして掲げ、住民の皆さんとともに取り組みます。

3つの重点プロジェクト(体系)



た「これからも暮らしたい」と思えるような「わ」のまちふかうら」を創りたいの思いから、『まち「ひと」「自然」がつなぐ、わのまちふかうら』を、まちの目指す姿として掲げています。

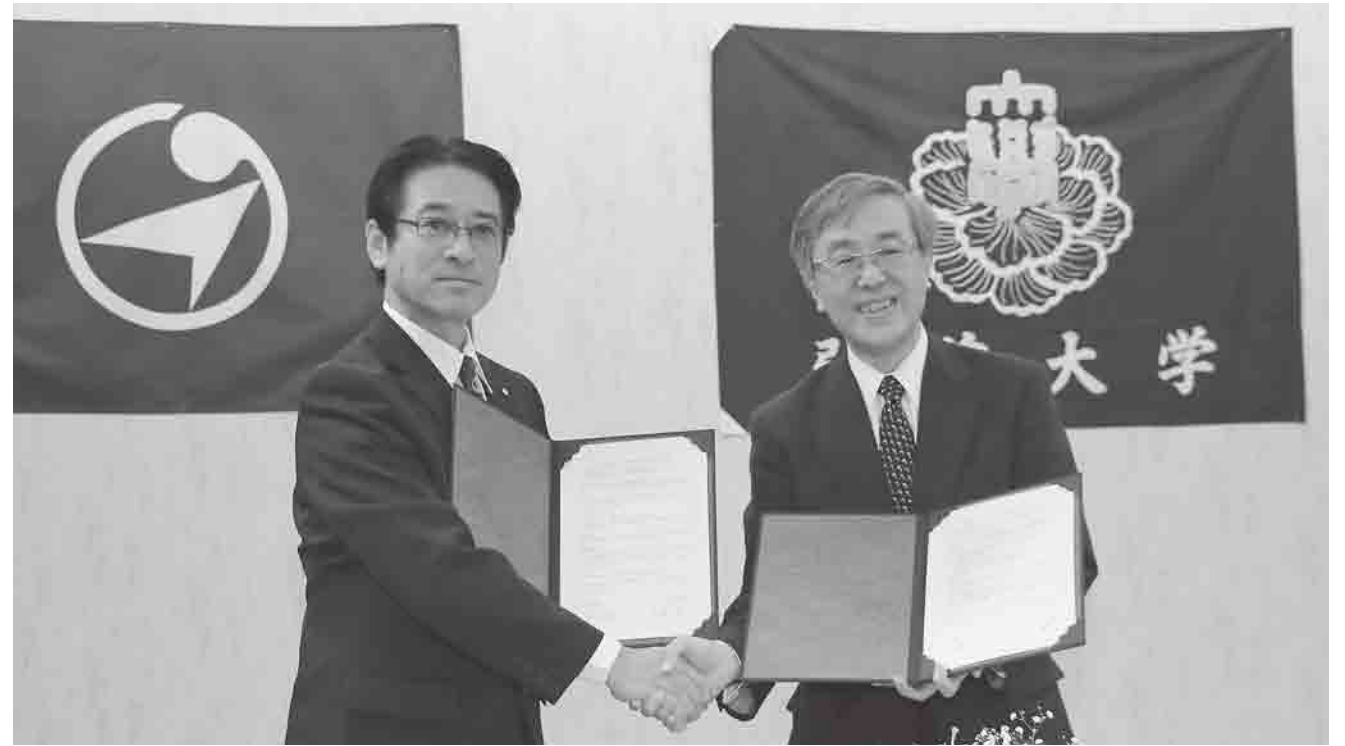
また、総合的な取組として「3つの重点プロジェクト」を提案しています。今、町が抱える

人口減少及び少子高齢化の進行、地域経済の停滞といった課題に対し、地域資源を強化・活用することにより、まちの魅力や活力、付加価値を一層高め、深浦町が暮らしやすく、定住促進やまちの賑わいにつなげていくことをめざす内容です。

町を取り巻く社会情勢は厳しさを増していますが、様々な変

化に的確に対応しながら、計画に基づく着実な施策実行を進め、住民のニーズにきめ細かく対応したまちづくりを進めたいと考えています。

また、今年度策定する「深浦町総合戦略」においても、当計画を基盤として進めていきたいと考えています。



固い握手を交わす佐藤学長(右)と吉田町長(左)

弘前大学との連携による 地域活性化を目指して

5月15日、町は弘前大学(佐藤敬学長)との間で、活力ある個性豊かな地域社会の形成と発展に関する連携協定を締結し、サーモン養殖実証事業の推進や地域農林水産物のブランド化等の施策を協力して進めていくことを発表しました。

町民文化ホールで行われた締結式では、弘前大学佐藤学長が「深浦町とは古くからお付き合いさせていたれている。豊かな自然が育んだ第1次産品に大きなポテンシャルを感じており、連携により付加価値を高めていきたい。また、深浦町をアクティブラーニングの場と位置付け、地域課題解決や地域活性化に向けた取り組みを進め、一つの連携成功モデルにしたい。その第一歩が踏み出せた。」と挨拶。

また、吉田町長は「人材育成、学術研究をとおして地域社会に多大な貢献をされている弘前大学との連携は心強い。地域が有する人材・資源・知識・経験を融合し、地方創生・ふるさと創生をすすめていきたい。」と決意を語りました。

協定締結による具体的な取組

として、「サーモン養殖事業の成功に向けて、大学全体で力を注ぎたい。その他、ポテンシャルをもった1次産品等を科学的な見解を示して付加価値をつけたい。」(弘前大学)、「サーモン事業のさらなる推進力になると期待している。」(町)とお互いに述べ合い、特に、昨年12月に(株)オカムラ食品工業(岡村恒一社長)、弘前大学食料科学研究所(嵯峨直恆所長)の3者で結んだ、サーモン養殖実証事業への期待を表明しました。

今回、町と弘前大学は
①サーモン養殖事業のさらなる推進

②町全体をエリアキャンパスとし学術研究へのフィールド化
③弘前大学の知見を活用した農水産物等素材の磨き上げ。

④町第2次総合計画の3つの重点プロジェクトの連携構築

⑤地方版総合戦略策定の協力
について連携して取り組んでいくこととなります。

グランドオープン から1年

十二湖の森

「森林セラピー基地」

平成25年3月、NPO法人森林セラピーソサエティ(瀬上清貴理事長)から県内初のセラピー基地として認定。そして、26年5月にグランドオープンした「森林セラピー基地十二湖の森」の1年とは。

オープンからの1年間

豊かな自然と山と海の恵みである食材を生かし、訪れた人に健康になつてもらい観光客を呼び込もうとセラピー事業がスタートし1年。町民向けモニターツアーやグッズを製作し、26年度は、74名のお客さんが十二湖の森に癒されました。また、10月には、白神山地の生き物を観察する会(浜田哲二代表)提案のもと、木造高校深浦校舎の生徒、森の会会員が参加しウッドチップの敷設作業を行い、地域の子どもたちに十二湖の森の「癒し」を知ってもらいました。

27年3月には、地元の食材をできるだけ使い、食事・香り・癒しの演出で安らぎの空間と時間を提供する「癒しの宿」に町内の7施設が認定され受入体制の強化が図られました。

「十二湖森の会」

現在、会員は28名。そのうち、森林セラピーガイド12名、森林セラピスト6名の会員が資格を取得しました。森林セラピー事業をきっかけにガイドを志した新人ガイドは、セミナーを積極的に受講し、スキルアップに励みました。

今では、宿泊施設からガイド依頼されるなど一人前に活躍するガイドも増えてきたとのこと。

これからの展開

6月1日から、予約をしていないお客様を対象に日帰りガイド



エフエム青森の人気番組「津軽へ行く!」とタイアップ企画を開催。ハンドマッサージに癒されるパーソナリティーの境香織さん(左)と柳澤ふじこさん(右)



十二湖の森ガイドの柳町明男さん。軽快なトークでお客様を案内していました

ドを実施。森の物産館キヨロロの入口付近に受付窓口を設置し、森の会会員が日替わりでガイドを行います。ガイド料は1時間コース5,000円、2時間コース8,000円。

町民のみなさんに、健康維持・増進の意識向上、そして、子どもたちの森林教育の場として十二湖の森を幅広く活用してもらうため、様々な事業を計画しているとのこと。また、企業の新人研修などを誘致するべく、癒しの宿に認定された7宿泊施設と協力し、お部屋にアロマディフューザーを設置したり、ハンドマッサージを提供するなどプログラム開発をしていきたいとのこと。

十二湖森の会員の一人一人の特徴を活かしたガイドが十二湖の大きな魅力の一つとなっています。十二湖地域の活性化に向けた森林セラピー事業に今後も注目したいと思います。



5/18 ナイターリーグ開幕

町朝野球協会主催のナイターリーグ開会式が、八森山野球場で行われました。

開会式には6チームから約50名が参加。県朝野球連盟深浦支部の山谷淳治支部長が「明るく、楽しく、時には激しくプレーを」と挨拶、前年度優勝チームの脇川ベースボールクラブの今樹央主将が「マグステ井、マグカツドッグの勢いに負けず、深浦の夕陽のように美しく優雅にプレーすることを誓います」と選手宣誓し、開幕試合が行われました。

県大会出場をかけたリーグ戦は、7月中旬まで行われる予定です。美しい野球を誓った脇川ベースボールクラブ今主将



5/22 脱短命県「だし活」で健康に



だしのうま味と健康の関連性を学ぶ

食生活の見直しで健康になろうと、町内各地で活動している町食生活改善推進員の総会・研修会が、町民文化ホールで行われました。

総会には28名が出席。昨年度の事業報告と今年度の事業計画(案)等が審議され、全て承認されました。また、役員が改選され、副会長に西巻さきさん(岩崎上)、理事に勢州谷富佐子さん(岩崎中)と平沢聖子さん(森山)が選任されました。

続いて行われた研修会では、青森県農林水産部総合販売戦略課の吉田主査を講師に、「だし活」文化の普及事業について学習。だしのうま味を活用した味噌汁を試食し健康増進へ向けて知識を深めました。

5/23-24 オープンから10年 愛称は「ぷらっと」

岩崎産直友の会主催の「産直スペシャルデー」が、十二湖駅産直コーナー及び特設会場で開催されました。

オープンから10年を記念し募集を行っていた、産直コーナー愛称の発表式も開催。全国各地、応募総数91点の中から「ぷらっと」が選ばれました。受賞した中村弘子さん(正久)は「プラットホームとぷらっと立ち寄るを掛け合わせました」と話していました。

また、両日合わせて約1,000人のお客さんが来場し、イベント限定の特製マグロ丼や真鯛の潮汁などが販売され完売になるほどでした。

昨年デビューし絶賛販売中の「青池ソフト」も十二湖に掛けて125円で販売され買い求めるお客さんが殺到しました。



岩崎産直友の会岩本会長(左)と受賞した中村弘子さん(右)

5/23 神秘の森に癒される



神秘的な青池に息をのむ参加者たち

春の十二湖33湖めぐりが行われ、町内外から参加した27名が、白神の森を散策しました。

参加者は、ガイドの堀内光紀さん(岩崎下)と斉藤富士子さん(松神)の豊富な動植物の知識に足を止めて聞き入り、今年豊作といわれるブナの実などの植物の写真を撮っていました。

当日は天気も良く、青池に太陽の光が射しこみ神秘的に輝くと歓声を上げていました。また、姿は確認できませんでしたが、アカショウビンの「キョロロロ」の鳴き声が、まるで十二湖の森への来訪を歓迎しているように響き渡りました。

5/27 納期内完納目指す

町納税貯蓄組合長会議及び納税貯蓄組合連合会(納貯連)総会が、町民文化ホールで行われました。

始めに、納期内完納継続の納税貯蓄組合長や5年以上勤務し退職した組合長16名を表彰。続いて、七戸年一会長が「事務行政の協力団体である認識をもって納期内完納を推進していきたい」とあいさつし、今年度の事業計画などが承認されました。

町の税徴収率は、県内上位。安定的な町税収入確保に向けて、納貯連では税知識の普及、啓もう活動を展開することとしています。



町長表彰を受賞した佐藤源蔵さん(轟木)

まちかどウォッチング

みなさんの身近な話題・行事・出来事などの情報をお寄せ下さい。

深浦町総合戦略課 企画調整係
電話 74-2122

5/3 大盛況！深浦会東京

ふるさとを離れ、首都圏で暮らしている深浦町出身者が集い、親睦を深める深浦会東京の総会・交流会が5月3日、品川区総合区民会館「きゅりあん」で行われ、約200人がふるさと深浦の思い出を語り合いました。

総会では、吉田文雄会長(田野沢出身)が「23回目の開催を迎えたが、30年50年と継続して活動を充実させたい。また、深浦町と岩崎村が合併して10年の節目の年。ますます交流を深めていきたい。」と挨拶。その後、吉田町長や来賓の方々が祝辞を述べました。

続いて活動報告など5議案が審議され、今年度の事業計画として深浦中学校の修学旅行での職場見学受け入れなどを呼びかけ全議案承認されました。

交流会では、久六島産のサザエやあんこうのとも和え、山菜や刺身といった郷土料理がテーブルにずらり。参加者は、ふるさとの味に舌鼓を打ち、懐かしい同郷の顔を見つけては昔話に花をさかせ、次の再会を誓っていました。

また、町出身の大相撲安美錦関が家族とともにサプライズ参加。来場者と記念撮影をするなど交流を深めました。



笑顔で記念撮影に応える安美錦関



久しぶりの再会に話の花が咲く

会員を募集！

深浦会東京事務局では、新規会員を募集しています。首都圏に在住している親類や友人の方をご紹介ください。ふるさと「ふかうら」の発展のために、交流の輪を広げましょう。

◆年会費 2,000円

□申込・問合せ先 深浦町総合戦略課 企画調整係
TEL 0173-74-2122

5/9 速く走りたい！



走り方を学ぶ子どもたち

5月9日(土)、「深浦町スポーツクラブ設立準備委員会」主催の『走り方教室』と『ノルディックウォーク体験会』が、木造高校深浦校舎グラウンドで行われ、44名が参加しました。

『走り方教室』では、普通の走り方だけでなく、横向き、後ろ向きなど様々な走り方に挑戦。参加者は、苦戦しながらも、笑顔で取り組んでいました。

また、ノルディックウォークではグラウンドを飛び出して行合崎まで足をのばし、きれいな海の景色を楽しみました。

準備委員会では、町民のみなさんに色々なスポーツを体験する機会を提供できるよう、クラブ発足に向けて、今後も定期的にイベントを開催することとしています。



健康万歩計は、西北五医師会が、皆さんが健康で元気に過ごすための必要な情報を提供し、ドクターからのアドバイスを紹介するコーナーです。

今月のドクター

小笠原 幸 裕 先生
ファミリークリニック☆希望・院長



紹介状(診療情報提供書)の上手な もらい方

治せない病気は今でも山ほどあるのが現実ですが、それでも50年前に比べて医学の発展はめざましいものがあります。1人の医師が、すべての病気を診断、治療する時代ではなくなりました。他の医師に紹介した方が患者さんの利益になる場合は、積極的に紹介するのが医師の責務です。例えば、私の場合なら100人の患者さんを診察して2人程度は、他の医師に診療を依頼しています。

患者さんを、医師から医師に診療依頼する際に書く紹介状のことを現代では「診療情報提供書」と言います。様々な医療情報が書いてありますので、行った先の医師にとっては、とても診療しやすくなります。紹介先の医師に余裕ができるため、良い診断、治療を患者さん側が享受しやすくなるのです。

医師は、紹介状を作成するために どのぐらいの時間と労力をかけているのでしょうか？患者さんの病状によっては7～8分で書ける場合もありますが、私の場合ですと20分以上かかっています。10年通院した たくさんの病気を抱えた高齢の患者さんが転居に伴い、かかりつけ医機能を別の医師に依頼するとなると60分以上かかることもあります。

また、ある医師は「魂を込めて紹介状を書いている」と言っています。

「今すぐに紹介状を書いてほしい」と言ってくる患者さん、家族が時々ありますが、他の患者さんを待たせて、慌てて書くとうなるのでしょうか？必要な情報を書き損ねる、まちがって書く、誤解しかねない文章など慌てて書くので出来のよくない紹介状になってしまう可能性が高くなります。もちろん、他の患者さん全員の待ち時間も長くなってしまいます。

結論：紹介状は重要な情報源です。緊急患者さんである場合を除き、医師に急いで紹介状を書かせることは得策ではありません。



ふかうらのいいもの

～これが深浦のブランド特産品～

「いつもお世話になっている人へのプレゼントに」「職場の人に地元のお土産を」「今日の夕飯の一品に」
そうだ『ふかうらのいいもの』にしよう

今回は「ブランド化された特産品『ふかうらのいいもの』があるのは分かったけど、じゃあ今認定されている商品はどれ？何を見ればわかるの？」の疑問にお答えします。



両面印刷で観音折りとよばれる折り方で配布しております。(縦に細長い形のパンフレットです)

〇このパンフレットを見ればふかうらのいいものがすぐわかります！

認定商品は前号でご紹介した2部門に分かれています。〔名産品部門〕44品〔特産物部門〕が4品、全部で48品が『ふかうらのいいもの』です。町内のどこで購入できるのか、商品の特徴やこだわり、値段を掲載しています。今後このパンフレットを全世帯の皆さまのお手元に届くよう毎戸配布予定です。

また、町公式ホームページにも掲載しております。

このパンフレットに掲載されている内容は2015年1月1日時点の情報です。皆様に最新情報をお届けできるように発信していきます。

☆ぼくも販売中☆

ウェスパ椿山物産館コロボックルさんに特産品コーナーを設置できるように、とりくんでいるよ。

ぼくもコロボックルさんでストラップになって皆さんのお越しをお待ちしております♪



深浦町特産品
PRキャラクター ゆうひくん

分かりやすいようにふかうらのいいものにはこのマークをつけるようにしているよ！



認定マーク

～ふかうらのいいものだよ～

不定期通信。深浦町特産品振興会の活動の様子などをお知らせ。

5月は岩崎産直友の会さん主催のイベント【オープン10周年記念 産直スペシャルサンクスデー】でPR活動を実施しました。つるつるわかめの試食(1日目のみ)とふかうら人参ジュースの試飲は皆さまに好評でした。ゆうひくんも皆と楽しい時間を過ごせたようです。



お問合せはこちら

『ふかうらのいいもの』に関するお問合せについては下記までご連絡くださるようお願いいたします。

特産品振興会事務局
(観光課商工振興係)
0173-74-4412

肩こり・腰痛・筋肉のほぐし他

カイロプラクティック施術 (全身) ¥3,000
お試し15分 (骨盤調整) ¥1,000
フェイシャルケアコース ¥5,000

〈健康グッズを取り扱っています〉ご相談ください！
布団、枕、骨盤保護パンツ、健康補助食品(サプリ)、化粧品・・・etc
出張施術致します！

カイロプラクティック院 らっきー

深浦町大字風合瀬字大磯135(2階) 上晴山バス停隣
【問合せ】080-6042-7173(山下)/不定休

Sai ～ビューティサロン～
～オスス＆メニュー～
ホイントハーマ 4,500円
(シャンプー、カット込)
トリートメントスバ 5,500円
(カット、トリートメント、ヘアオイル、ブロー込)
カット&カラー 5,000円
(シャンプー、カット、ブロー込)
定休日:月曜日、第3日曜日
TEL 74-4336
深浦町大字広戸字新上 クロネコヤマトせん願
(送迎しております)
OPEN 8:30～

大切な御縁をいただいたお客様に ～ありがとう～と言われる仕事を心掛けています。

ご用命は
任せて安心の
家族葬から一般葬・社葬まで
ご予算に応じた御葬儀を
提案・施工いたします。

厚生労働省認定

1級葬祭ディレクター在籍店



株式会社 深浦葬祭
Fukaura Funeral Service

病院・施設等からの搬送は安心の緑ナンバー車で！
「一般貨物自動車運送事業(霊柩)第497号」
365日・24時間受け付けております。

電話(74)4536

FAX:74-4546

従業員
募集中



深校だより

木々の緑が目眩しい今日この頃。深浦校舎では、4月に66名の生徒で新学期をスタートしてから、遅刻や早退、欠席もほとんどなく、全校生徒が毎日元気に高校生活を続けています。深浦校舎では昨年、一昨年と「十二湖森林セラピー遊歩道」整備に協力させていただきまし。今年度もこの活動を継続し、7月にはウッドチップ作りと袋詰め、9月にはそのウッドチップを撒く作業を行う予定です。

春季大会の結果報告

本校の運動部は硬式野球部、サッカー部、陸上競技部、バドミントン部、卓球部の5つです。1年次生のほとんどが運動部に加入し、選手が少なかった陸上競技部やバドミントン部は新たなチームとして毎日練習に励んでいます。そして4月末から5月にかけて地区や県の春季大会が行われました。卓球の地区大会のダブルスでは、どのペアも1回戦を勝利し、佐々木・野呂ペアは県大会まで進み、初戦突破を果たしました。またサッカーの地区大会では五所川原第一高校と対戦し、2-1で勝利をおさめました。今後は、高校総体や7月に行われる甲子園予選に向けて、日々の練習を積み重ねていきます。応援よろしく願っています。

白神体験学習

毎年1年次では白神体験学習を行っています。今年度は5月21日(木)に実



森の中にあるフィールドサイン(動物がいた痕跡を探して十二湖周辺を歩きました。様々な鳥の鳴き声に耳を傾けたり、熊が木に登った際の爪痕を見たりすることで、生徒たちは森の中で生き続ける動物たちを身近に感じることができたようです。また昨年度撒いたウッドチップの上を実際に歩き、その歩きやすさを実感しました。

「6・7月の行事予定」

6月13日(土) 体育祭
(PTAから地域の皆様にも豚汁を準備しております。是非、見に来て下さい。)
6月16日(火) 1年次介護体験学習
6月17日(水) 鈴木マクロー氏講演会
6月29日(月) 1学期期末考査
7月2日(木) 森林セラピー遊歩道整備①
7月 行合崎清掃活動



施しました。

ガイドとしてフリーカメラマンの浜田夫妻に来ていただき、動植物についての説明をしてもらいながら、

スカイツリーの下で「深浦フェア開催」

5月25日から27日にかけて、首都圏を中心に鮮魚販売を展開する株式会社魚力と株式会社あおもり海山が共催し、魚力全50店舗で「青森・深浦フェア」が開催されました。開催は昨年に引き続き2回目となり、魚力東京スカイツリータウン・ソラマチ店では深浦から直送された新鮮な鮮魚を求めて大勢のお客さんが行列をつくりました。

25日には、吉田町長やあもり海山堀内社長も駆けつけ深浦の鮮魚PRに汗を流しました。「深浦マグロボーイズ&バックダンサーズ(FMB)」のメンバーも店頭に立って、深浦マグロのPRやつるつるわかめなど特産品の試食販売などをおこないました。応援に駆け付けたFMBメンバーは、「外国人観光客が多く、スマホの翻訳アプリが手放せなかった(笑)。これからも深浦のPRにつながる活動をしていきたい」と語りました。



深浦マグロがずらりと並ぶ



店頭には新鮮な魚を求めて長蛇の列

編集後記

深浦町・岩崎村合併10周年記念事業の「深浦のど自慢大会」の取材にでかけました。出場した20組は観衆の前でも緊張することなく歌声を披露し、笑いあり、感動ありの大会でした。私は、「超」がつくほどの音痴です。人前で歌わないようにしている私にとって、出場者のみなさん

がとても羨ましく思えました。そんな私がカラオケに行くときは、合の手を入れたり、踊ったりと盛り上げ役に徹します。が、当然歌うときもあります。その時は、「音痴！」や「採点等」の音符振り切れてる！」と言って大いに笑ってあげてください。よろしく願います。

町民文化

俳句

浜萱草俳句会

海あとに新樹のロード来て嬉し
菜花畑水の流れを明るくす
薫風をわしづかみして津軽富士
星屑の地上にあふる花りんご
人住めぬかの地彩る桜かな
花ぶき童地蔵の頭の上
客待らて向きを変えたり白椿
散るさくら記憶遠のく忠魂碑

山本 志恵
砂子田 ツエ
七戸 たか女
山本 こう女
田口 ゆき
渋谷 真佐江
蒲田 幸子
近藤 月子

戸籍の窓

4月21日～5月20日までの戸籍届出

お誕生おめでとう

大滝 駿(志津誠) 戸作
工藤 双葉(春和菜樹) 広戸
野呂 五月(順昇) 広戸
小野 結衣花(友守) 田野沢
秋元 乃音(智敏栄子輝) 沢辺
山本 紗(由真貴之) 風合瀬
今 天磨(亜祐妹磨) 岩崎中

おぐやみ申し上げます

石田 一雄(70歳) 3区
坂崎 昭浩(54歳) 風合瀬
岩谷 タチミ(82歳) 柳田
田村 てる(91歳) 関坂
岩谷 ゆり子(84歳) 岩坂
山本 幸太郎(90歳) 田野沢
木村 みわ(100歳) 柳田
伊藤 つぎ(82歳) 柳田
黒滝 正年(92歳) 関田
茂内 明人(64歳) 大間越
原田 ゆき(85歳) 正久
西田 とむ(81歳) 正久

ご結婚おめでとう

川平 沢真兵(森山)
村理恵(大間越)

深浦町の人口と世帯

《5月末現在》()内は前月比

男 …… 4,276人(-5)
女 …… 4,785人(-3)
計 …… 9,061人(-8)
世帯数 3,879世帯(+1)

深浦町の総面積 488.86km²



「時の記念日」

みよし保育園のなかよしたち

(左から)

こ ん あかり ちゃん

(5さい)

くろたき せ なる ちゃん

(5さい)



このコーナーでは、元気いっぱいな園児たちの作品をご紹介します



熊谷 凛音 ちゃん
(父 海 さん
母 あゆみ さん)
(広 戸)



阪崎 岳 ちゃん
(父 龍 さん
母 麻田美 さん)
(風 合 瀬)

● このコーナーでは、1歳を迎えたチビッコ達をご紹介します ●

【訂 正】

広報ふかうら5月号8Pに間違いがありました。正しくは右記のとおりです。お詫び申し上げます、訂正させていただきます。



長谷川敦子さん(北金3区)



古川礼子さん(北金3区)